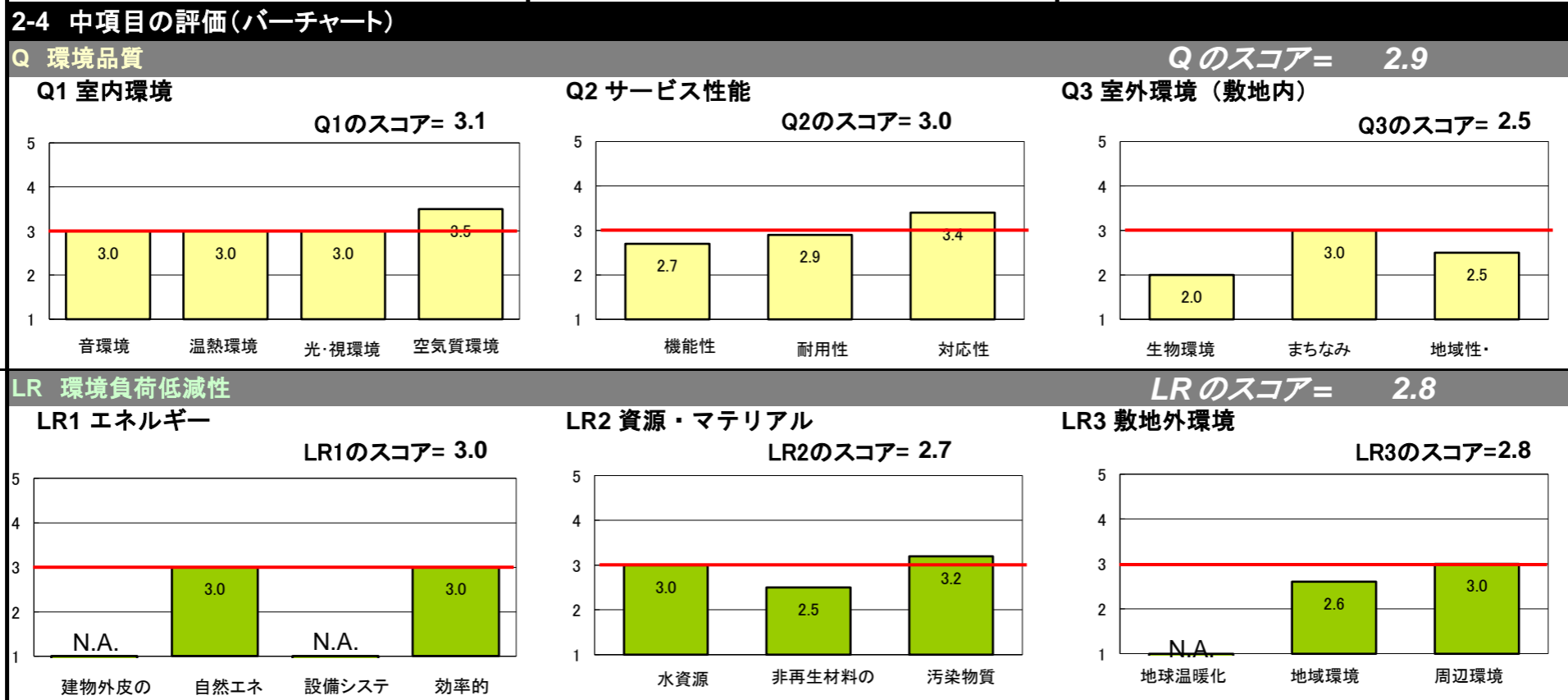
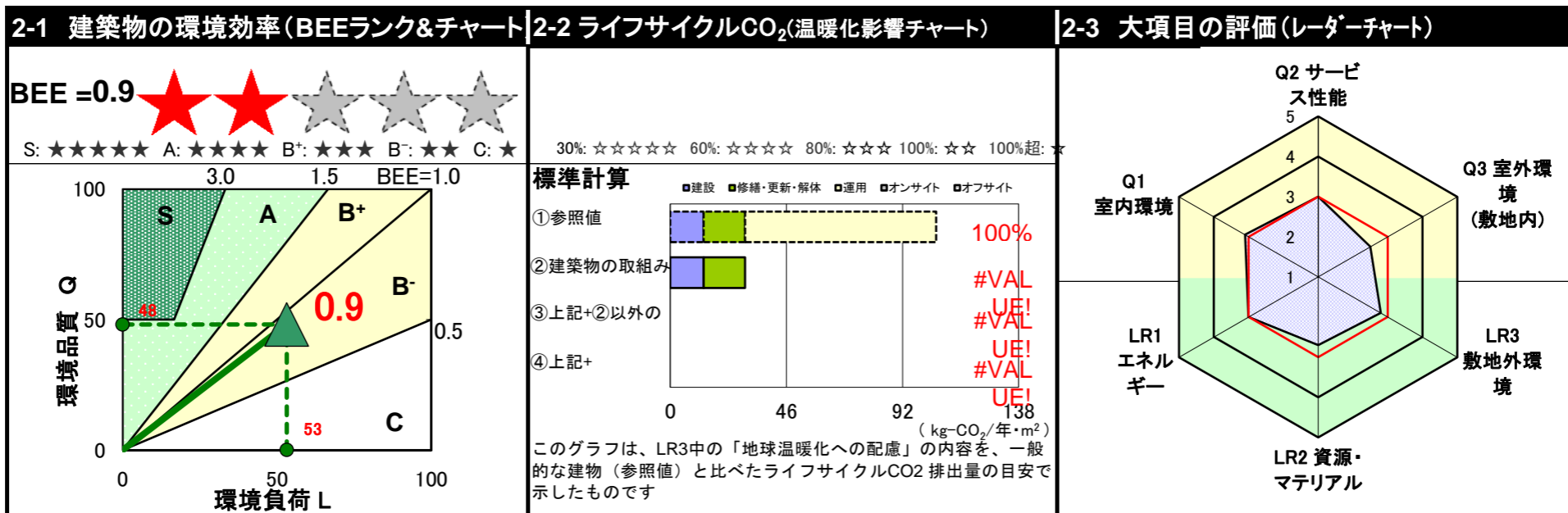


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社マキタ 本社新E棟	階数	地下0階地上6階
建設地	愛知県安城市住吉町3丁目169	構造	RC造
用途地域	工業地域	平均居住人員	500 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年11月 予定	評価の実施日	2020年10月22日
敷地面積	18,939 m ²	作成者	ベルドクール設計 横須賀
建築面積	1,913 m ²	確認日	2020年10月22日
延床面積	9,298 m ²	確認者	ベルドクール設計 横須賀



3 重点項目

①地球温暖化への配慮	N.A.	③敷地内の緑化	2.0
		外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	19.1 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
②資源の有効活用	2.8	④地域材の活用	1.0
		<外装材に使用した地域性のある材料>	なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体		
配慮項目	重点項目			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質																
Q1 室内環境																
1 音環境																
1.1 室内騒音レベル																
1.2 遮音																
1 開口部遮音性能																
2 界壁遮音性能																
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																
1.3 吸音																
2 温熱環境																
2.1 室温制御																
1 室温																
2 外皮性能																
3 ゾーン別制御性																
2.2 湿度制御																
2.3 空調方式																
3 光・視環境																
3.1 昼光利用																
1 昼光率																
2 方位別開口																
3 昼光利用設備																
3.2 グレア対策																
1 昼光制御																
3.3 照度																
3.4 照明制御																
4 空気質環境																
4.1 発生源対策																
1 化学汚染物質																
4.2 換気																
1 換気量																
2 自然換気性能																
3 取り入れ外気への配慮																
4.3 運用管理																
1 CO ₂ の監視																
2 喫煙の制御																
Q2 サービス性能																
1 機能性																
1.1 機能性・使いやすさ																
1 広さ・収納性																
2 高度情報通信設備対応																
3 バリアフリー計画																
1.2 心理性・快適性																
1 広さ感・景観 (天井高)																
2 リフレッシュスペース																
3 内装計画																
1.3 維持管理																
1 維持管理に配慮した設計																
2 維持管理用機能の確保																
2 耐用性・信頼性																
2.1 耐震・免震・制震・制振																
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																
2 免震・制震・制振性能																
2.2 部品・部材の耐用年数																
1 躯体材料の耐用年数																
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																
6 主要設備機器の更新必要間隔																
2.4 信頼性																
1 空調・換気設備																
2 給排水・衛生設備																
3 電気設備																
4 機械・配管支持方法																
5 通信・情報設備																

3 対応性・更新性			0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	②	-	5.0	0.60	-	-	3.0	-
2	空間の形状・自由さ								
3.2 荷重のゆとり			3.0	4.0	0.40	-	-	3.0	-
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	-
1	空調配管の更新性		-	3.0	0.17	-	-	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	2.8
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.50	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			3.0	-	-	-	-	-	-
4 効率的運用			0.5	3.0	0.50	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	-
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	2.7
1 水資源保護			0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	3.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.5	0.63	-	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	3.0	0.25	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.2	0.22	-	-	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.3	0.68	-	-	-	-
1	消火剤		-	4.0	0.33	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.33	-	-	-	-
3	冷媒		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮		①	-	-	-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮			0.5	2.6	0.50	-	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.6	0.25	-	-	-	-
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.33	-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		-	-	-	-	-	-	-
3	交通負荷抑制	独自	-	5.0	0.33	-	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		-	3.0	0.33	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮			0.5	3.0	0.50	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	-
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	-
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	-
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	-

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:19.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社マキタ 本社新E棟

計画上の配慮事項	
総合	室内環境性を考慮した音・空調・光環境の構築するとともに、更新性、メンテナンス性に配慮した設備計画を行う。
Q1 室内環境	ガラスはLowE複層ガラスを採用することで熱負荷の低減を図っている。
Q2 サービス性能	階高や空間の自由さに余裕を持たせ、今後の室変更等に柔軟に対応できるようにしている。 また、非常用発電機を計画し、万が一の事態に備えている。
Q3 室外環境(敷地内)	植栽面積を確保し良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	外壁部に現場発泡ウレタンを吹付断熱性を確保している。
LR2 資源・マテリアル	消火設備として、通常の消火栓に加え窒素ガスによる消火設備を計画している。
LR3 敷地外環境	職員が利用する駐輪場・駐車場を十分に整備している。
その他	特になし